

2020年5月1日

「私の隣人は誰ですか」 ― 「隣人愛」の実践として（2）

副校長 竹山 幸男

4月も終わりを迎え、いよいよ5月がスタートしました。京都の日差しも日に日に暖かさを増し、空気も澄んでいて、晴れた日の国際会議場から見た比叡山の姿は、いつもよりも大きく感じました。生徒の皆さんのおられない寂しく静かな学校のキャンパスでは、鳥たちが美しい声を響かせ、草木のいのちが本格的に躍動する季節を迎えている様子を目の当たりにして、自然の偉大さを感じている今日このごろです。皆さんのお住まいの地域も、春本番を迎えておられることと思います。時々家の周りの風景や自然にふれて、いつもなら見過ごしてしまうようなものに、目や耳を澄ましてみられることをお勧めします。

さて、第4週目は、ゴールデンウィークがあるので、5月6日（木）と7日（金）2日間の課題提示となります。第3週目に引き続き、これまでの動画を用いた課題の提示、提出、メールでの質問に加えて、教科によっては、zoomで皆さんからの質問を受け付ける時間を設けますので、生徒の皆さんも参加してみてください。また、先週より日ごろの担任の先生からの連絡へのレスポンス（応答）に加えて、クラスの生徒の皆さんとの面談がスタートしています。すでに面談が終わった皆さん、これからの皆さんもあると思いますが、皆さんの日頃の様子などをぜひ知らせてください。健康観察については、引き続き保健室の先生あてご提出ください。第4週目の詳細については、学校ホームページ上の教務部より「第4週目のお知らせ」または学習ポータルサイト上の生徒ページ・生徒伝達に掲載する「第4週目のお知らせ」をご覧ください。機器（iPad）やアプリの使い方で不明な点があれば、「学習ポータルサイト」（→ [生徒ページ] → [在宅学習サポート]）にアドバイスや解決方法を掲載しています。また、「2020年度版ICT活用・情報倫理ハンドブック」（同志社中学校）の1～28ページに、課題提出で用いているロイロノート、zoomの利用方法を含



め、iPadでの学習に際してのさまざまな活用ガイドが掲載されていますので、取り組みの際には、引き続き参照するようにしてください。

さて、今日も前回に引き続き2020年の学校聖句について、「善きサマリア人のたとえ」のお話から考えてみたいと思います。（ルカによる福音書10章25節～37節）

「イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二もこれと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイによる福音書22章37～39節）

“Love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind. This is the first and greatest commandment. And the second is like it: Love your neighbor as yourself.” (Mathew Ch22v37-39)

実は、この聖句は、イエス様を試そうとした律法の専門家が「聖書の中でどの掟がもっとも重要なものですか」と問うたその返答として語られたものです。マタイによる福音書だけでなく、マルコによる福音書にも書かれています。今日皆さんとお読みしたいルカによる福音書では少し違って、律法の専門家が「先生、何をしたら永遠のいのちを受け継ぐことができるのでしょうか。」と問うたのに対し、イエス様はすぐに返答せずに、「律法には何と書いているか」と問い返し、逆に律法の専門家が自分でこの聖句を返答してしまふことになりました。イエス様は「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば、永遠のいのちが得られる」と言われたものの、律法の専門家としては自分を正当化しようとしてそのまま立ち去らず、「では、私の隣人は誰ですか」という質問を再びイエス様にしたのです。これがきっかけとなり、「善きサマリア人のたとえ」が語られることになりました。

「ある人がエルサレムからエリコに下っていく途中に追いはぎに襲われました。そして服をはぎとり、殴りつけ、半殺しにされて、道端に放置されました。そこに3人の人が通りかかりました。最初に通りかかったのは祭司でした。彼は、その被害者を見ましたが、道の反対側を歩いていきました。次に来たレビ人も、同じように道の反対側を歩いていきました。そして三番目に通りかかったサマリア人だけが、この怪我をして動けないでいる旅人を憐れに思い近づき、助け、介抱してあげました。」このたとえ話の後、イエス様は「この3人の中で、誰が追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」と尋ねました。すると、律法の専門家は、「その人を助けた人です」と言いました。そこで、イエス様は、「あなたも行って同じようにしなさい」と言われたのです。しかし、この律法の専門家が、自分で家に帰った後その通りにしたかどうかは書かれていないので、定かではありません。

この善きサマリア人のたとえ話の背景として、当時のユダヤ人は、「隣人」と言えば、同じ信仰を持っていたユダヤ人のことと理解し、サマリア人を軽蔑し差別していたと言われていま

す。律法の専門家は「自分は隣人を愛している」という自信を持って、イエス様に質問したのですが、逆に問いかけられる立場になりました。イエス様は、このたとえ話で、当時のユダヤ人の差別と偏見や形式的で愛による行動の伴わない「正しさ」を強く指摘し、サマリア人の心から心配し寄り添う思いや見返りを求めない親切な行動、無償の愛による具体的な行動を通じて、「真の隣人愛」を私たちに教えようとされました。民族や利害関係を越えた身近にいる人々、私たちの知らない人々も含め、「すべての隣人」を愛するようにと示した、聖書における重要なメッセージとなっています。

さらに、このたとえ話の意味するところとして、ここに登場するサマリア人は、イエス様ご自身のことをさし、道端で倒れていた旅人は私たちがさすというとりえ方があります。倒れて傷ついている旅人は、1から10までのことをサマリア人にたとえられているイエス様にしてもらいました。本当に至れり尽くせりの愛をいただいたのです。

キリスト教のメッセージの中心に、イエス・キリストがいのちをかけて私たちが愛し、私たちの隣人になってくださった。主・イエスが私たちが愛してくださったからこそ、私たちも神様を愛することができるし、隣人を愛することもできる、という考え方があります。まさに、律法の専門家の「何をしたら永遠のいのちを得ることができますか」への解答が、このたとえ話の中で語られているとも考えられます。

私たちも、「神様が私たちがどれだけ愛してくださっているか、大切にしているか」をまず理解して、実感するところから、そして、神様の愛に自分の心に向け、それを受け止めることができ初めて、「自分を愛するように隣人を愛する」ことができることを知り、体験することが大切です。

もう1度、2020年の学校聖句を見てみましょう。

「イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二もこれと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイによる福音書22章37～39節）

先ほどは、「善きサマリア人」のたとえ話から、この聖句を考えてみましたが、実は、日本においても、この聖句はさまざまな言葉に言い換えられて伝えられてきました。まず、最もよく知られたものとしては、「敬天愛人」という言葉があります。これは、2018年のNHK大河ドラマ「西郷（せご）どん」の主人公・西郷隆盛が記した「書」：「敬天愛人」（天を敬い、人を愛する）によるものが有名です。同志社の創業者・新島先生の紹介でアメリカのアーモスト

大学で学んだ内村鑑三は、この

「敬天愛人」という言葉が、天を神と考えると「神を愛するように隣人を愛する」という聖書の教えと同じものであることを発見し、

感動して心を揺り動かされました。最近の研究では、西郷さんが聖書を読んでいたのではないかと、とも言われています。もう1つよく知られているものとしては、「愛神愛隣」という言葉があります。これは、キリスト教学校、施設の建学の精神、学校標語としてよく用いられています。

同志社と関係の深いミッションボード（宣教団体）が創設した神戸女学院も、永久標語としてこの言葉を用いています。この聖句をイラストで現すと、神様を愛すること（縦の関係）と隣人を愛すること（横の関係）の2つで成り立っていることがわかります。

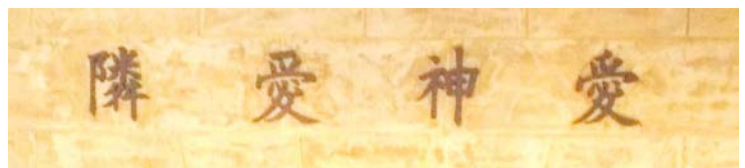


それでは、新島先生はこの聖句どうとらえていたのでしょうか。

「キリスト教とは何ぞや」と聞かれたらどう答えるか、という新島先生の説教があります。（「愛とは何か」現代語訳で読む新島襄 197～198ページ参照）新島先生の答えは、「愛を以てこれを貫く」です。愛を以てすべてを貫く道、これがキリスト教の教えだと語っています。



この言葉は、私たちが日々の礼拝を行う場所であるグレイスチャペルの正面入口に刻まれています。「愛は真理の基礎なり」「天地の主宰の大意は愛人なり。人その意を敬（つつし）み人を愛すべし」とも語られています。



「敬天愛人」「愛神愛隣」「神を愛し、隣人を愛する」

「FOR OTHERS」神戸女学院で長年教員をされていた内田樹先生は、その最終講義の中で、いずれか1つではなく、この2つの愛がないとバランスが取れない、と語られていました。

「私たちの隣人は誰ですか」キリスト教主義学校である同志社中学校に学ぶ私たち一人ひとは、聖書で語られている「隣人」とは誰か、「隣人愛」とは何か、神様の前に静まり、神様からの愛を受けとめ、思い巡らしてみましよう。これまで、私たちの毎日の生活、人生の中で、この旅人のような大変な経験でなくても、知らない人、思ってもみない人から何か優しい語りかけや対応を受けたことを思い出し、神様に感謝してみましよう。そして、ゴールデンウ

イークを前にして、先週私たちの行動として教えられた“STAY HOME、SAVE LIVES”のメッセージを心にとめ行動する1週間となりますように。また、今のコロナ感染症の特別な状況の中で、「善きサマリア人」のように、毎日とても厳しい環境において、医療や介護に従事され日々のお仕事にあたっておられる方々のために、神様の御翼による見守りがあるように祈らせていただく1週間とさせていただきます。

「あなたも行って同じようにしなさい。」（ルカ10章37節）



*毎日新聞 社説 「緊急事態宣言下の外出 他者への配慮欠かせない」（2020年4月23日）
も読んでみてください。 <https://mainichi.jp/articles/20200423/ddm/005/070/051000c>
